

## 令和3年度第1回総合教育会議 三木市教育の現状と課題

## 1 就学前教育・保育

主な項目	現 状	課 題
一人一人の特性に応じた質の高い就学前教育・保育の推進	<p>市内すべての就学前教育・保育施設で等しく質の高い教育・保育を実施するため、幼保一体化計画に定める「三木市就学前教育・保育共通カリキュラム」に基づき、市内の公立・民間施設の保育者を対象とした「保育者研修」を実施している。</p> <p>また、市内の特定教育・保育施設における教育・保育の質の向上及び運営の適正化を図るため、市独自の第三者による評価及び監査を実施している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度は、「保育者研修」を実施できなかった。アフターコロナにおける研修方法の見直しが必要となっている。</p>
多様な教育・保育ニーズへの対応	<p>市独自に平成29年4月から3歳～5歳保育料無償化、0歳～2歳50%軽減の実施に加えて、令和元年10月に国の幼児教育・保育の無償化がスタートしたことで、全ての年齢で就園希望が増加し、幼保一体化計画の推計児童数に比べ、実際の児童数が減少していない。</p> <p>利用者ニーズに対応するため、現在、幼保一体化計画の見直しを進めており、去る7月15日にみきっ子未来応援協議会「就学前教育・保育部会」を開催し、志染保育所の存続と小規模保育施設の廃園時期の見直し（案）について意見を求めた。</p> <p>入園を待つ児童を受け入れるためには、施設の廃園時期の見直しと合わせて、保育教諭不足を解消するため、その確保に努めている。</p> <p>主な取組は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 処遇改善策として、民間園に対し、処遇改善対策補助金を交付</li> <li>2 「三木市保育教諭等修学資金貸与条例」に基づく修学資金貸与制度の周知</li> <li>3 学生の就業体験事業の一環である「保育教諭のたまごたち！」の募集</li> <li>4 民間合同による就職説明会の開催</li> </ol>	<p>入園を待つ児童を一人でも多く解消し、利用者のニーズに応じていくことが喫緊の課題となっている。</p>

## 2 学校教育

主な項目	現 状	課 題
<p>基礎学力の定着と 活用力・学びに向 かう力の育成</p>	<p>文章や図、表から必要な情報を読み取る力、知識・技能等を活用する力、自分の考えをまとめて書くことのできる力を育成するため、児童生徒が学習教材の中から個々の理解度に応じて最適な教材を選択し、主体的に課題解決に取り組む「個別最適な学び」により、学力の向上を図っている。</p> <p>具体的な方策として、令和元年度から、基礎から活用まで個に応じた習熟度別学習プリントを活用する「みっきいすてっぷ」を活用した学習を始めている。</p> <p>「みっきいすてっぷ」においては、令和3年3月に1人1台のタブレット端末が導入され、プリント学習からタブレットドリル学習に教材が変更された。児童生徒の学習履歴や取組状況、理解度などのデータがクラウド上に蓄積されるため、教員がそれらを把握することが容易になり、一人一人の学習課題に合った学びをより提供しやすくなっている。</p> <p>さらに、活用力を育成する授業づくりについて、タブレット端末等のICT機器の効果的な活用例や新たに得た知識と既知の知識を関連づけて考える授業、グループ学習等を効果的に活用し、課題解決を図る協働学習などの研究等を進め、授業改善に取り組んでいる。</p>	<p>見えない学力と言われている学習への動機づけや、根気よく最後まで学び続ける自己調整力などの成長を自己評価し、改善する指導が重要である。</p> <p>また、タブレットドリルの学習履歴を効果的に学習指導に活用することができるよう、教員のICT活用能力を高めることも重要である。</p> <p>引き続き、児童生徒に自主性や協働性、創造性等を育むことができるよう、教員の指導力の向上を図っていく。</p>
<p>情報活用能力の育 成</p>	<p>すべての学習の機会において、GIGAスクール構想により配備された1人1台のタブレット端末を主体的に活用し、学びを深め、広げることができるよう指導を行っている。</p> <p>そのために、日常的な学習用具として使用するICT機器を適切に活用できるよう、教員の意識変革や技能の向上を図っている。</p> <p>また、タブレット端末の使用に関するルールやマナーについて、家庭と共有できるよう、説明会を開催したり、ホームページへの掲載やプリント配</p>	<p>タブレット端末の活用について、学校間や担任間で活用力に差が出ないよう、活用状況を確認しながら取組を推進する必要がある。</p> <p>また、教員のICT活用能力の向上や研修の取組の一層の充実を図る必要がある。</p> <p>学校教育において、ICT機器を活用した学習については、これから更</p>

	<p>布等による情報提供を行ったりしている。</p>	<p>に大きな役割を果たすことが期待されるが、併せて、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することを通じて各自の資質や能力を伸ばしていくことができる学習機会を設定していくことが重要である。</p>
<p>小中一貫教育の導入</p>	<p>義務教育の9年間で一貫した教育課程を編成し、系統性、連続性のある教育を行う小中一貫教育を推進していくために、担当者が各中学校区を訪問し、研修を行っている。</p> <p>令和3年度から新たに、小・中学校教員交流研修を行い、異校種間の学校において研修することを通して、教員の資質及び指導力の向上をめざしている。</p>	<p>小学校6年、中学校3年の区切りで行われてきたこれまでの学校において、9年間の視点で行う小中一貫教育へ移行する必要がある、教員の意識改革や研修が必要となる。</p>
<p>小中一貫校体制への移行</p>	<p>総合教育会議で議論された内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 吉川地区を中心とする地域には、地域性や通学上の課題から小規模となったとしても学校を残すこと。</li> <li>2 小中一貫教育や施設一体型の学校の良さを市長、各教育委員が共有したこと。保護者及び地域に対し丁寧に説明する必要性があること。</li> <li>3 三木で教育を受けさせたいと思えるような学校づくりを進めること。</li> <li>4 学校をつくるには予算がかかる。三木市、日本の将来を担う子どもたちのために、必要な予算を適切に使うこと。</li> </ol> <p>施設一体型の小中一貫教育を行う学校の設置に向けては、教育委員会として、これまで13校の先進校を訪問し、特徴ある教育内容等について研究を進めてきた。</p>	<p>今進めている統合の確実な実施を地域の方々は望んでおり、優先順位を高くして取り組んできた。</p> <p>統合の見通しが立ちつつある今、施設一体型の小中一貫教育を行う学校の設置についてこれまでの総合教育会議の議論等を踏まえ、施設設置に向けた合意形成を図る必要がある。</p> <p>コロナ禍にあっても、可能な限り、先進地域の情報等を集約し、更に研究を進める必要がある。</p>

### 3 生涯学習課

主な項目	現 状	課 題
ライフステージに対応した多様な学びの機会の提供	高齢者大学や大学院において、地域貢献や社会貢献の視点に立った学びの機会を提供することにより、生きがいづくりと居場所づくりを支援している。	近年、学生数が減少傾向にあるため、学習内容の充実や、各公民館の高齢者教室参加者への入学勧奨など、広報の充実をより一層図る必要がある。
公民館を核とした生涯学習活動の推進	乳幼児教育学級など、充実した生涯学習講座の提供や自主学習グループの育成、支援を行うとともに、生涯学習講座やイベントを通じて、住民間や世代間、地域間の交流を促進している。	各種講座を提供することにより、世代間、地域間の交流を図っているが、さらに小・中学校の統廃合を見据えた地域間の交流を進めていくことも必要である。
地域の未来を担う人づくりと地域課題の解決に向けた支援	<p>公民館と市民協議会が連携し、地域の実情や課題について、「地域の課題は地域で解決する。」という機運を醸成し、住民主体のまちづくりを進めている。</p> <p>また、高齢者大学や大学院、公民館の生涯学習講座で学んだ人が、地域リーダーやまちづくりの担い手、生涯学習講座の指導者として、その学習の成果を地域社会のために適切にいかすことのできる取組を推進している。</p>	人生 100 年時代を迎えるにあたり、「まちづくりは、ひとづくり」という考え方に基づき、現在各公民館で行っている生涯学習講座を高齢者大学、大学院へと学びの場を繋いでいき、学びを還元するため、地域で指導者として活躍できる場を提供していく仕組づくりが必要である。